Ⅰ．住民基本台帳に基づく人口及び人口動態の概要

１．住民基本台帳に基づく人口

(1) 概要

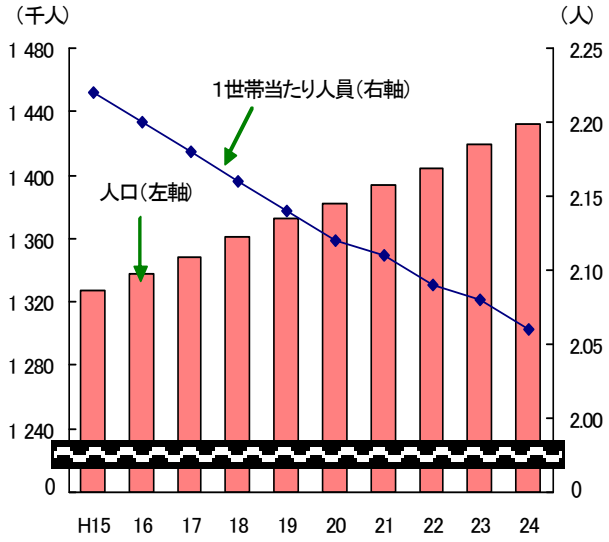
１世帯あたり世帯人員2.06人
世帯規模の縮小化続く

住民基本台帳に基づく平成24年９月末現在の福岡市の人口は1,432,532人で前年（平成23年９月末現在）に比べ13,221人増加し，増加率は0.9%となっています。世帯数は694,512世帯で，前年に比べ10,627世帯増加し，増加率は1.6%となりました。

性別に見ると，男性は679,533人で，前年と比べて5,336人増加し（対前年増加率0.8%），女性は752,999人となり，前年と比べて7,885人の増加（同1.1%）となっています。女性を100としたときの男性の割合を示す「性比」は90.2で，前年比0.3の減少となりました。

１世帯あたり人員は2.06人で，前年比0.02人の減少となりました。人口・世帯数ともに増加傾向にありますが，世帯数の伸びが人口の伸びを上回っているため，１世帯当たり人員は減少が続き，世帯規模の縮小化が続いています。

図１ 人口及び１世帯当たり人員の推移



(2) 行政区別人口

人口・世帯数ともに都心部で最も増加

行政区別に見ると，人口は城南区以外の区で増加，世帯数は全ての区で増加しています。人口は東区の284,623人が最も多く，次いで南区，早良区の順になっています。世帯数は，東区の131,434世帯が最も多く，以下，南区，博多区と続いており，人口，世帯数ともに最も少ないのは城南区となっています。人口増加数は，博多区の2,912人が最も多く，次いで中央区の2,896人と

表１　世帯数及び人口等の推移

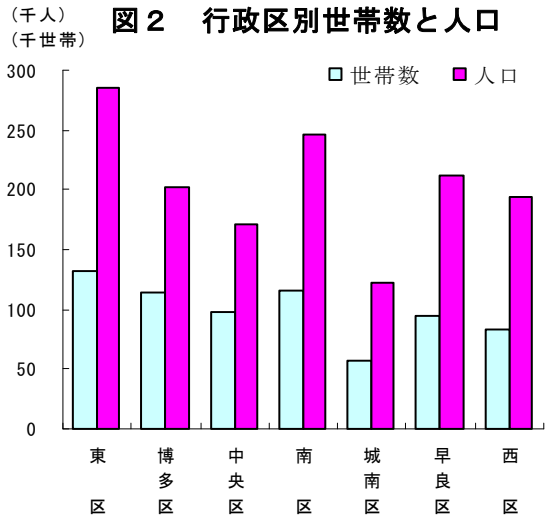
（各年９月末現在）

年	世帯数	前年増加率	人口	前年増加率	男	女	性比	１世帯当たり人員
	世帯	%	人	%	人	人		人
平成15年	598 954	1.6	1 327 099	0.8	634 863	692 236	91.7	2.22
16年	608 510	1.6	1 337 576	0.8	639 168	698 408	91.5	2.20
17年	618 034	1.6	1 347 823	0.8	642 842	704 981	91.2	2.18
18年	630 866	2.1	1 361 060	1.0	648 387	712 673	91.0	2.16
19年	642 514	1.8	1 372 840	0.9	652 935	719 905	90.7	2.14
20年	652 282	1.5	1 382 563	0.7	656 798	725 765	90.5	2.12
21年	662 040	1.5	1 394 017	0.8	662 176	731 841	90.5	2.11
22年	671 525	1.4	1 404 525	0.8	667 402	737 123	90.5	2.09
23年	683 885	1.8	1 419 311	1.1	674 197	745 114	90.5	2.08
平成24年	**694 512**	**1.6**	**1 432 532**	**0.9**	**679 533**	**752 999**	**90.2**	**2.06**

なっており，城南区は減少に転じました。世帯増加数も，博多区が2,446世帯と最も多く，中央区が1,913世帯で続いています。

性比を見ると，博多区が94.9と最も高く，次いで東区の94.5で，他の区と比べて男性の割合が多くなっています。最も低い中央区(79.2)，続く南区(88.9)は他の区と比べて女性の割合が多いことが分かります。１世帯当たり人員を見ると，最も多いのは西区の2.34人で，以下，早良区，東区の順になっており，都心部に位置する中央区(1.74人)と博多区(1.76人)は，福岡市全体の2.06人を下回っています。

図２　行政区別世帯数と人口



人口密度は，中央区が11,245人／㎢と最も高く，早良区が2,210人／㎢と最も低くなっています。

(3) 年齢別人口

生産年齢人口割合の低下が続く

福岡市の平均年齢は，男性が40.8歳，女性が43.7歳，全体は42.3歳となり前年に比べ0.2歳上昇しました。

年齢区分別の構成比を見ると，福岡市全体の15歳未満の「年少人口」の割合は14.0％となり，横ばい状態が続いています。15～64歳の「生産年齢人口」の割合は67.7％で，前年と比べ0.7ポイント減少し，65歳以上の「老年人口」の割合は18.3％で，前年と比べて0.7ポイント増加しました。

行政区別に見ると，年少人口の割合が福岡市全体の割合(14.0％)より高いのは，西区，早良区及び東区で，生産年齢人口の割合が福岡市全体の割合(67.7％)より高いのは中央区と博多区，老年人口の割合が福岡市全体の割合(18.3％)より高いのは，城南区，南区，西区及び早良区となっています。

年齢構成指数を見ると，「年少人口指数（生産年齢人口100に対する年少人

表２　行政区別世帯数及び人口

（各年９月末現在）

市・区	平成23年		平成24年										
	世帯数	人口	世帯数	増加率	人口	増加率	構成比	男	女	性比	１世帯当たり人員	面積	人口密度
	世帯	人	世帯	%	人	%	%	人	人		人	㎢	人/㎢
福岡市	**683 885**	**1 419 311**	**694 512**	**1.6**	**1 432 532**	**0.9**	**100.0**	**679 533**	**752 999**	**90.2**	**2.06**	**341.70**	**4 192**
東　区	129 816	282 475	131 434	1.2	284 623	0.8	19.9	138 317	146 306	94.5	2.17	68.36	4 164
博多区	112 487	199 910	114 933	2.2	202 822	1.5	14.2	98 747	104 075	94.9	1.76	31.47	6 445
中央区	95 797	167 578	97 710	2.0	170 474	1.7	11.9	75 347	95 127	79.2	1.74	15.16	11 245
南　区	114 308	244 764	115 892	1.4	246 869	0.9	17.2	116 160	130 709	88.9	2.13	30.98	7 969
城南区	56 809	121 633	57 198	0.7	121 615	△0.0	8.5	57 634	63 981	90.1	2.13	16.02	7 591
早良区	93 224	211 304	94 223	1.1	211 928	0.3	14.8	100 556	111 372	90.3	2.25	95.88	2 210
西　区	81 444	191 647	83 122	2.1	194 201	1.3	13.6	92 772	101 429	91.5	2.34	83.83	2 317

注）面積は平成24年10月１日現在

表３ 年齢階級別人口及び平均年齢

（平成24年９月末現在）

年齢（５歳階級）	福岡市 総数	福岡市 男	福岡市 女	東区	博多区	中央区	南区	城南区	早良区	西区
総数	**1 432 532**	**679 533**	**752 999**	**284 623**	**202 822**	**170 474**	**246 869**	**121 615**	**211 928**	**194 201**
０～４歳	70 037	35 860	34 177	14 986	9 536	7 193	11 869	5 572	10 467	10 414
５～９	64 795	33 230	31 565	13 934	7 490	5 922	10 991	5 518	10 689	10 251
10～14	65 365	33 290	32 075	13 598	7 053	6 018	11 669	5 707	11 154	10 166
15～19	66 439	33 482	32 957	13 779	7 873	6 295	11 660	6 049	10 905	9 878
20～24	83 397	39 765	43 632	16 566	14 802	10 720	13 142	7 482	10 867	9 818
25～29	104 226	49 338	54 888	18 985	20 790	16 376	16 649	7 679	12 670	11 077
30～34	112 643	54 336	58 307	21 203	19 166	16 889	18 457	8 489	14 722	13 717
35～39	121 740	59 414	62 326	23 982	18 339	16 012	20 623	9 819	16 728	16 237
40～44	114 141	56 068	58 073	22 299	16 115	14 549	19 724	9 262	16 659	15 533
45～49	94 070	45 880	48 190	18 453	12 467	11 904	16 326	7 766	14 160	12 994
50～54	85 237	41 782	43 455	16 740	11 133	10 179	15 183	7 336	13 403	11 263
55～59	85 253	41 423	43 830	17 160	11 105	9 493	14 958	7 575	13 524	11 438
60～64	102 761	49 423	53 338	20 812	13 334	10 979	18 217	9 247	16 072	14 100
65～69	74 300	34 272	40 028	14 834	9 814	7 865	13 056	6 788	11 508	10 435
70～74	63 379	27 548	35 831	12 727	8 037	6 512	11 441	5 799	9 676	9 187
75～79	52 159	21 362	30 797	10 273	6 594	5 613	9 548	4 882	7 855	7 394
80～84	37 741	13 770	23 971	7 366	4 751	4 088	7 020	3 490	5 709	5 317
85～89	22 327	6 850	15 477	4 390	2 866	2 481	4 066	2 034	3 334	3 156
90～94	9 298	1 940	7 358	1 887	1 174	1 021	1 674	821	1 354	1 367
95～99	2 731	450	2 281	572	329	304	490	258	401	377
100歳以上	493	50	443	77	54	61	106	42	71	82
平均年齢	**42.3**	**40.8**	**43.7**	**42.1**	**41.4**	**42.0**	**42.9**	**43.1**	**42.6**	**42.3**
（区…男）				40.6	40.1	40.6	41.3	41.4	41.1	40.7
（区…女）				43.4	42.6	43.1	44.4	44.6	43.9	43.8

表４ 年齢別（３区分）人口

（各年９月末現在）

年齢区分	平成23年 福岡市	平成24年 福岡市	東区	博多区	中央区	南区	城南区	早良区	西区
年少人口（15歳未満）	198 694	**200 197**	42 518	24 079	19 133	34 529	16 797	32 310	30 831
構成比（%）	14.0	**14.0**	14.9	11.9	11.2	14.0	13.8	15.2	15.9
生産年齢人口（15～64歳）	970 383	**969 907**	189 979	145 124	123 396	164 939	80 704	139 710	126 055
構成比（%）	68.4	**67.7**	66.7	71.6	72.4	66.8	66.4	65.9	64.9
老年人口（65歳以上）	250 234	**262 428**	52 126	33 619	27 945	47 401	24 114	39 908	37 315
構成比（%）	17.6	**18.3**	18.3	16.6	16.4	19.2	19.8	18.8	19.2

口の比率)」は20.6,「老年人口指数（生産年齢人口100に対する老年人口の比率)」は27.1となっています。この二つを合わせた，生産年齢人口の扶養負担程度を示す「従属人口指数」は47.7で，前年に比べ1.4ポイント上昇しています。また,生産年齢人口の影響を受けないため，高齢化を敏感に示す「老年化指数（年少人口に対する老年人口の割合)」は131.1で，前年より5.2ポイント上昇しています。

平成２年からの推移を見ると，総人口は増加しているものの，総人口に占める年少人口と生産年齢人口の割合は低下し，一方で，老年人口の割合は大きく伸びており，福岡市においても高齢化が進んでいることを示しています。

「人口ピラミッド」（５歳階級）を見ると，第１次ベビーブーム世代（1947～49 年生まれ)を含む 60 歳代前半と，第２次ベビーブーム世代（1971～74 年生まれ）を含む 30 歳代から 40 歳代前半の人口が多く，19 歳以下の人口が特に少ないことが分かります。

行政区別に見ても，概ね同じ傾向にありますが，都心部に位置する博多区や中央区と，周縁部の西区や早良区とを比べると，年齢構成の違いにより，ピラミッドの形も異なっていることが分かります。

《人口の年齢構成の特徴を表す指数》

年少人口指数

$$= \frac{\text{年少人口}}{\text{生産年齢人口}} \times 100$$

老年人口指数

$$= \frac{\text{老年人口}}{\text{生産年齢人口}} \times 100$$

従属人口指数

$$= \frac{\text{年少人口＋老年人口}}{\text{生産年齢人口}} \times 100$$

老年化指数

$$= \frac{\text{老年人口}}{\text{年少人口}} \times 100$$

図３ 年齢別（３区分）人口（構成比）
（平成 24 年９月末現在）

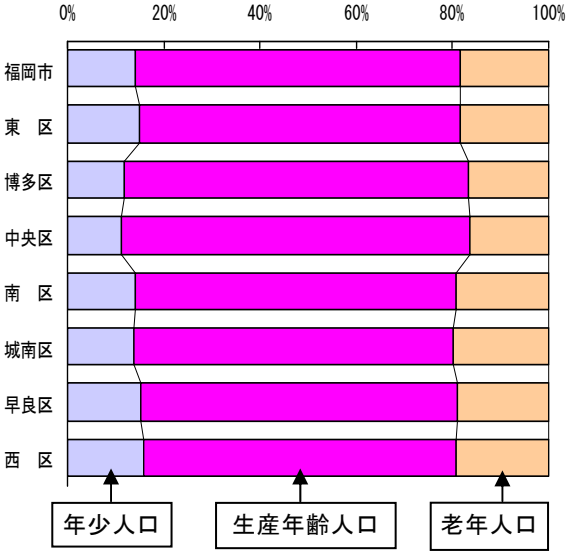


表５ 平均年齢，年齢３区分構成比及び年齢構成指数の推移

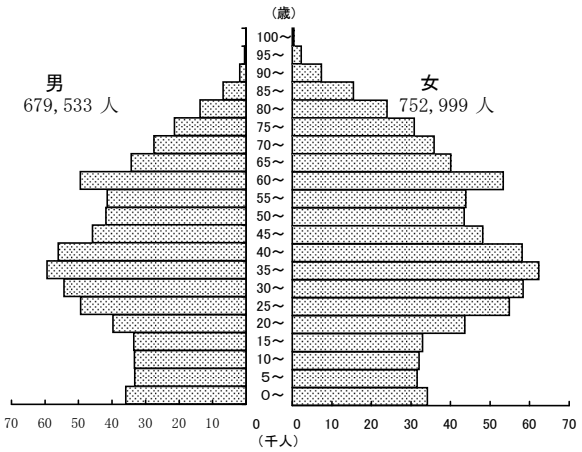
（各年９月末現在）

年	平均年齢（歳）	人口総数	年少人口	構成比	生産年齢人口	構成比	老年人口	構成比	年少人口指数	老年人口指数	従属人口指数	老年化指数
平成2年	35.3	1 197 989	230 546	19.2%	856 772	71.5%	110 671	9.2%	26.9	12.9	39.8	48.0
7年	37.2	1 238 762	204 554	16.5%	895 018	72.3%	139 190	11.2%	22.9	15.6	38.4	68.0
12年	38.8	1 291 542	190 824	14.8%	927 609	71.8%	173 109	13.4%	20.6	18.7	39.2	90.7
17年	40.4	1 347 823	189 398	14.1%	950 768	70.5%	207 657	15.4%	19.9	21.8	41.8	109.6
22年	41.9	1 404 525	196 457	14.0%	962 620	68.5%	245 448	17.5%	20.4	25.5	45.9	124.9
23年	42.1	1 419 311	198 694	14.0%	970 383	68.4%	250 234	17.6%	20.5	25.8	46.3	125.9
24年	**42.3**	**1 432 532**	**200 197**	**14.0%**	**969 907**	**67.7%**	**262 428**	**18.3%**	**20.6**	**27.1**	**47.7**	**131.1**

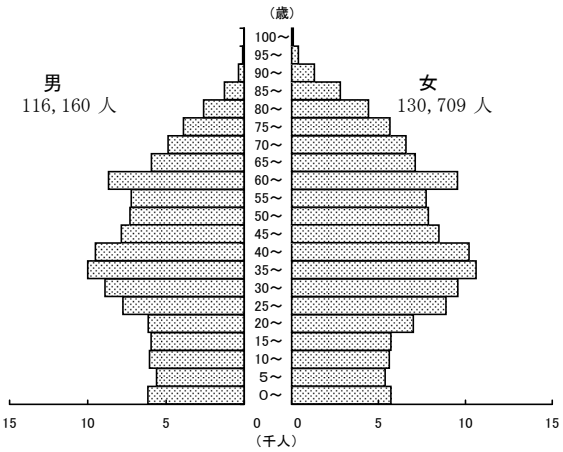
図４　人口ピラミッド（５歳階級）

平成24年９月末現在

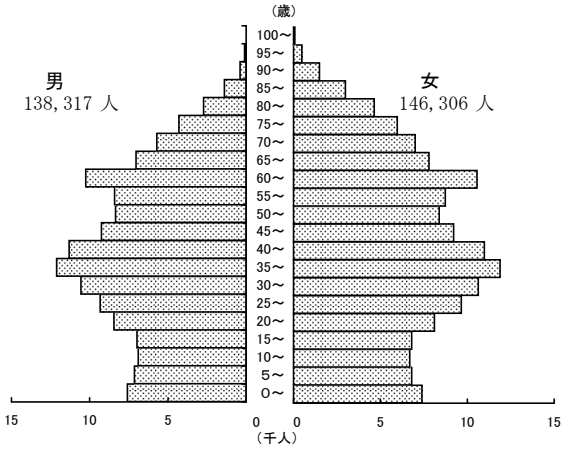
＜福　岡　市＞



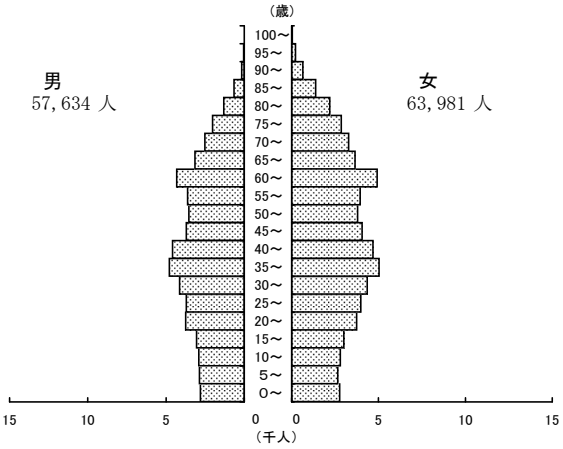
＜南　区＞



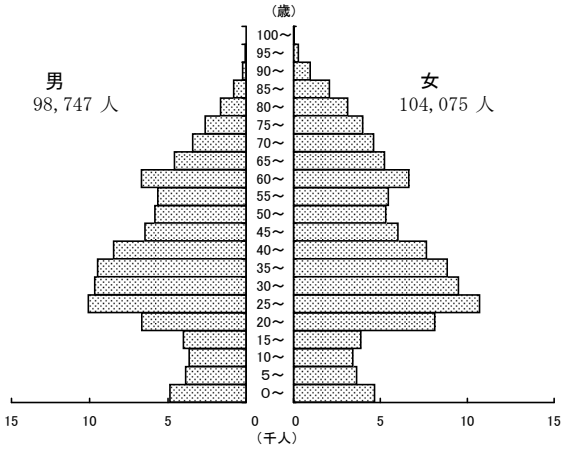
＜東　区＞



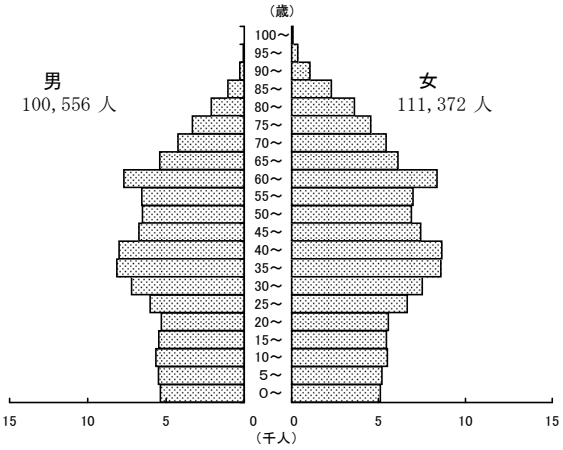
＜城南区＞



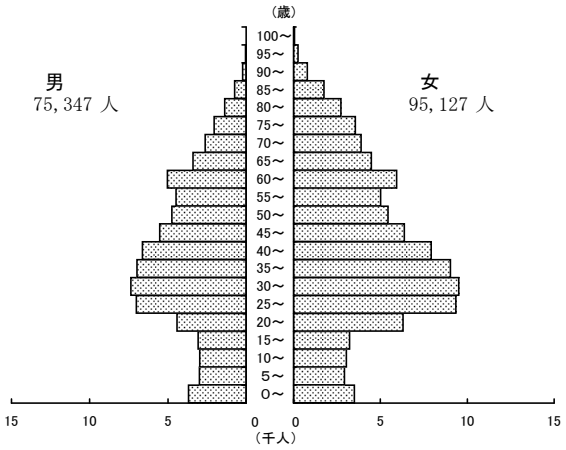
＜博多区＞



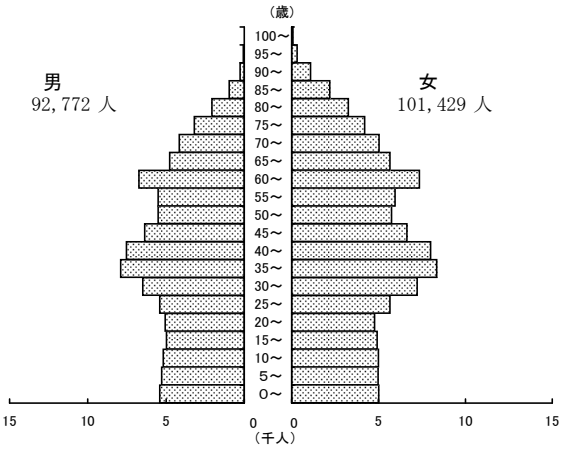
＜早良区＞



＜中央区＞



＜西　区＞



(4) 小学校区別人口

女性比率上位５校区は全て中央区

小学校通学区域別に見ると，人口が最も多いのは平尾校区(中央区)の21,519人で，以下，博多区の博多校区(19,752人)，博多区の那珂校区(18,803人)と続いています。人口が最も少ないのは曲渕校区(早良区)の188人で，次いで西区の小呂校区，東区の勝馬校区となっています。

人口増加数は，千早校区(東区)の1,083人増が最も多く，以下，西区の玄洋校区(966人増)，南区の塩原校区(634人増)となっています。

人口増加率は，千早校区の13.2%が最も高く，次いで東区の照葉校区の9.4%，玄洋校区の8.6%と続いています。

性比を見ると，男性の比率が最も高いのは，筥松校区(東区)の110.6で，次いで吉塚校区(博多区)の109.3となっています。一方，女性の比率が最も高いのは，警固校区(中央区)の70.3で，上位５校区を中央区が占めています。

年齢３区分別人口を見ると，年少人口割合が最も高いのは照葉校区の34.6%で，次いで金武校区(西区)の23.9%となっています。生産年齢人口割合は，東住吉校区(博多区)の81.6%が最も高く，上位５校区は都心部の博多区と中央区に位置しています。老年人口割合は，曲渕校区の43.6%が最も高く，次いで城浜校区(東区)の38.6%が続いています。

老年化指数は，曲渕校区が820.0と最も高く，次いで志賀島校区(東区)の657.4，城浜校区の425.7が続いています。

表６　校区別人口各種比較（上位５校区）

(平成24年9月末現在)

【人口総数】

校区(行政区)	人口	男	女
	人	人	人
平尾(中央)	21 519	9 154	12 365
博多(博多)	19 752	9 203	10 549
那珂(博多)	18 803	9 514	9 289
住吉(博多)	18 107	8 572	9 535
香住丘(東)	17 247	8 536	8 711

【人口増加数】

校区(行政区)	人口	増加数	増加率
	人	人	%
千早(東)	9 289	1 083	13.2
玄洋(西)	12 246	966	8.6
塩原(南)	11 474	634	5.8
博多(博多)	19 752	593	3.1
周船寺(西)	13 559	575	4.4

【人口増加率】

校区(行政区)	人口	増加数	増加率
	人	人	%
千早(東)	9 289	1 083	13.2
照葉(東)	4 946	423	9.4
玄洋(西)	12 246	966	8.6
塩原(南)	11 474	634	5.8
金武(西)	5 602	308	5.8

【性比－男性が多い】

校区(行政区)	男	女	性比
	人	人	
筥松(東)	6 942	6 278	110.6
吉塚(博多)	5 210	4 767	109.3
松島(東)	8 917	8 289	107.6
東光(博多)	3 944	3 728	105.8
多々良(東)	7 041	6 678	105.4

【性比－女性が多い】

校区(行政区)	男	女	性比
	人	人	
警固(中央)	6 902	9 811	70.3
福浜(中央)	2 316	3 131	74.0
平尾(中央)	9 154	12 365	74.0
赤坂(中央)	4 736	6 353	74.5
高宮(中央)	4 961	6 597	75.2

【老年化指数】

校区(行政区)	老年人口	年少人口	老年化指数
	人	人	
曲渕(早良)	82	10	820.0
志賀島(東)	618	94	657.4
城浜(東)	1 473	346	425.7
大名(中央)	907	226	401.3
今津(西)	1 062	283	375.3

【年少人口割合】

校区(行政区)	人口	年少人口	年少人口割合
	人	人	%
照葉(東)	4 946	1 713	34.6
金武(西)	5 602	1 339	23.9
三苫(東)	9 256	1 840	19.9
百道(早良)	7 683	1 501	19.5
原北(早良)	7 817	1 497	19.2

【生産年齢人口割合】

校区(行政区)	人口	生産年齢人口	生産年齢人口割合
	人	人	%
東住吉(博多)	8 465	6 909	81.6
春吉(中央)	11 823	9 308	78.7
高宮(中央)	11 558	9 083	78.6
堅粕(博多)	9 803	7 664	78.2
簀子(中央)	8 305	6 447	77.6

【老年人口割合】

校区(行政区)	人口	老年人口	老年人口割合
	人	人	%
曲渕(早良)	188	82	43.6
城浜(東)	3 821	1 473	38.6
志賀島(東)	1 674	618	36.9
能古(西)	740	269	36.4
福浜(中央)	5 447	1 891	34.7

２．人口動態（平成24年1～12月）

(1) 自然動態

自然増加数　減少続く

平成24年（１～12月）の自然動態（出生と死亡の数）は，出生数14,479人，出生率（人口1,000人当たりの出生数）は10.11‰（パーミル），死亡数は10,703人，死亡率（同死亡数）は7.47‰で，自然増加数は両者の差の3,776人，自然増加率（同自然増加数）は，2.64‰となりました。

平成23年と比較すると，出生数は前年と比べ94人増加（前年比0.7％増）しましたが，死亡数も前年と比べて244人の増加（前年比2.3％増）となったため，自然増加数は前年比150人の減少（前年比△3.8％）となりました。近年，出生数，死亡数ともに増加傾向にありますが，死亡数の伸びが出生数の伸びを上回っており，平成22年以降自然増加数は減少が続いています。

行政区別に見ると，出生率は博多区の11.31‰が最も高く，次いで東区，西区の順になっています。死亡率は城南区の7.84‰が最も高く，以下，東区，早良区が続いています。 自然増加率が最も高いのは，博多区の3.88‰で，最も低いのは城南区の0.48‰でした。

福岡市でも高齢化が進んでおり，今後，死亡数が増加していくことが予想されることから，出生数の動向が自然動態を左右すると考えられます。

表７　自然動態の推移

	出生数	死亡数	自然増加	
			実数	率
	人	人	人	‰
H15	13 024	8 318	4 706	3.55
16	12 978	8 510	4 468	3.34
17	12 542	8 762	3 780	2.80
18	13 255	8 915	4 340	3.19
19	13 921	9 104	4 817	3.51
20	13 977	9 654	4 323	3.13
21	14 207	9 341	4 866	3.49
22	14 506	10 158	4 348	3.10
23	14 385	10 459	3 926	2.77
24	**14 479**	**10 703**	**3 776**	**2.64**

表８　自　然　動　態

市・区	平成23年			平成24年					
	自　然増加数	出生数	死亡数	自　然増加数	増加率	出生数	増加率	死亡数	増加率
	人，‰	人，‰	人，‰	人，‰	%	人，‰	%	人，‰	%
福岡市	**3 926**	**14 385**	**10 459**	**3 776**	**△ 3.8**	**14 479**	**0.7**	**10 703**	**2.3**
	(2.77)	**(10.14)**	**(7.37)**	**(2.64)**		**(10.11)**		**(7.47)**	
東　区	928	3 036	2 108	867	△ 6.6	3 041	0.2	2 174	3.1
	(3.29)	(10.75)	(7.46)	(3.05)		(10.68)		(7.64)	
博多区	650	2 156	1 506	786	20.9	2 293	6.4	1 507	0.1
	(3.25)	(10.78)	(7.53)	(3.88)		(11.31)		(7.43)	
中央区	583	1 624	1 041	514	△ 11.8	1 610	△ 0.9	1 096	5.3
	(3.48)	(9.69)	(6.21)	(3.02)		(9.44)		(6.43)	
南　区	506	2 360	1 854	568	12.3	2 456	4.1	1 888	1.8
	(2.07)	(9.64)	(7.57)	(2.30)		(9.95)		(7.65)	
城南区	282	1 166	884	58	△ 79.4	1 012	△ 13.2	954	7.9
	(2.32)	(9.59)	(7.27)	(0.48)		(8.32)		(7.84)	
早良区	569	2 081	1 512	474	△ 16.7	2 089	0.4	1 615	6.8
	(2.69)	(9.85)	(7.16)	(2.24)		(9.86)		(7.62)	
西　区	408	1 962	1 554	509	24.8	1 978	0.8	1 469	△ 5.5
	(2.13)	(10.24)	(8.11)	(2.62)		(10.19)		(7.56)	

注）（　）内は，各年９月末現在の人口1,000人当たりの自然増加数，出生数，死亡数。

(2) 社会動態（市外移動）

全ての区で転入超過

平成24年の社会動態(市外との転出入の数）は，転入者数が73,677人で転入率（人口1,000人当たりの転入者数）51.43‰，転出者数64,789人の転出率（同転出者数）45.23‰，両者の差である社会増加数は8,888人で，社会増加率（同社会増加数）は6.20‰となっています。

平成23年と比較すると，転入者数は575人減少（対前年増加率△0.8%）し，転出者数は1,276人増加（同2.0%）し，社会増加数は1,851人減少(同△17.2%）しましたが,平成８年以降転入超過の状態が続いています。

行政区別に見ると,転入者数が最も多いのは博多区の15,225人で，次いで東区，中央区となっています。転出者数は博多区の12,877人が最も多く，以下，東区，中央区となっており，社会増加数は中央区の2,362人が最も多くなりました。平成23年に引き続き，全ての区で転入超過となりました。

各区の人口動態の構成を見ると,都心部に位置する中央区と博多区は,特に社会増加数の割合が高いことが分かります。

図５　人口動態の構成

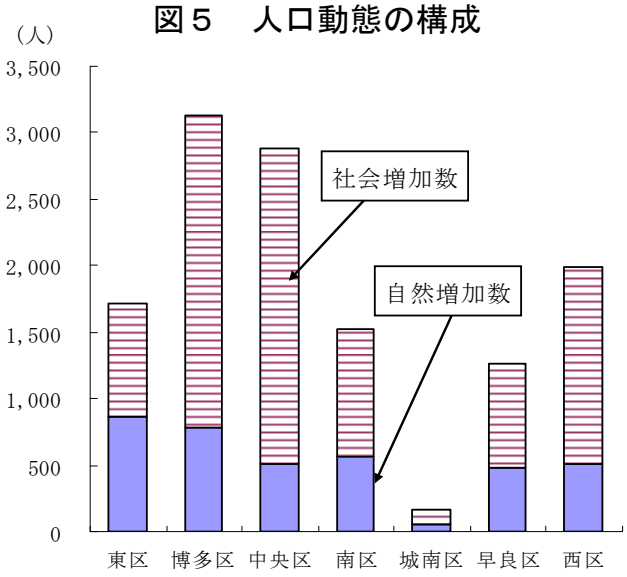


表９　社 会 動 態（市外移動）

市・区	平成23年 社会増加数	平成23年 転入者数	平成23年 転出者数	平成24年 社会増加数	平成24年 増加率	平成24年 転入者数	平成24年 増加率	平成24年 転出者数	平成24年 増加率
	人，‰	人，‰	人，‰	人，‰	%	人，‰	%	人，‰	%
福岡市	**10 739** **(7.57)**	**74 252** **(52.32)**	**63 513** **(44.75)**	**8 888** **(6.20)**	**△ 17.2**	**73 677** **(51.43)**	**△ 0.8**	**64 789** **(45.23)**	**2.0**
東　区	1 556 (5.51)	13 262 (46.95)	11 706 (41.44)	843 (2.96)	△ 45.8	13 179 (46.30)	△ 0.6	12 336 (43.34)	5.4
博多区	2 957 (14.79)	15 779 (78.93)	12 822 (64.14)	2 348 (11.58)	△ 20.6	15 225 (75.07)	△ 3.5	12 877 (63.49)	0.4
中央区	3 144 (18.76)	12 839 (76.62)	9 695 (57.85)	2 362 (13.86)	△ 24.9	12 611 (73.98)	△ 1.8	10 249 (60.12)	5.7
南　区	536 (2.19)	10 407 (42.52)	9 871 (40.33)	959 (3.88)	78.9	10 535 (42.67)	1.2	9 576 (38.79)	△ 3.0
城南区	230 (1.89)	4 863 (39.98)	4 633 (38.09)	111 (0.91)	△ 51.7	4 716 (38.78)	△ 3.0	4 605 (37.87)	△ 0.6
早良区	1 164 (5.51)	8 966 (42.43)	7 802 (36.92)	788 (3.72)	△ 32.3	8 827 (41.65)	△ 1.6	8 039 (37.93)	3.0
西　区	1 152 (6.01)	8 136 (42.45)	6 984 (36.44)	1 477 (7.61)	28.2	8 584 (44.20)	5.5	7 107 (36.60)	1.8

注）（　）内は，各年９月末現在の人口1,000人当たりの社会増加数，転入者数，転出者数。

３．人口移動状況（平成24年1～12月）

(1) 福岡都市圏との人口移動

転出超過数増加　人口流出は続く

福岡都市圏との人口移動状況は，転入者は12,734人で，前年と比べて36人減少（対前年増加率△0.3%）し，転出者は13,293人で，前年と比べて32人増加（同0.2%）しました。転入と転出の差で559人の転出超過となり，福岡市外の福岡都市圏への転出超過（人口流出）が続いています。

平成20年からの推移を見ると，転入・転出者数ともに減少傾向にあり，転出超過数は，平成21年の1,100人をピークに２年連続で減少していましたが，平成24年は増加に転じました。

地域別の移動状況を見ると，筑紫地域との人口移動が最も多く，次いで糟屋地域，糸島市，宗像地域の順になっています。転出超過は，糟屋地域が最も多く，次いで筑紫地域が続き，宗像地域，糸島市は転入超過となっています。

(2) 全国地方別人口移動

九州・沖縄地方との移動が約６割

全国地方別に移動状況を見ると，九州・沖縄地方との人口移動が最も多く，転入者は45,152人（対前年増加率1.0%）で，転出者は36,905人（同0.5%）とな

図６　福岡都市圏との転入・転出者数の推移

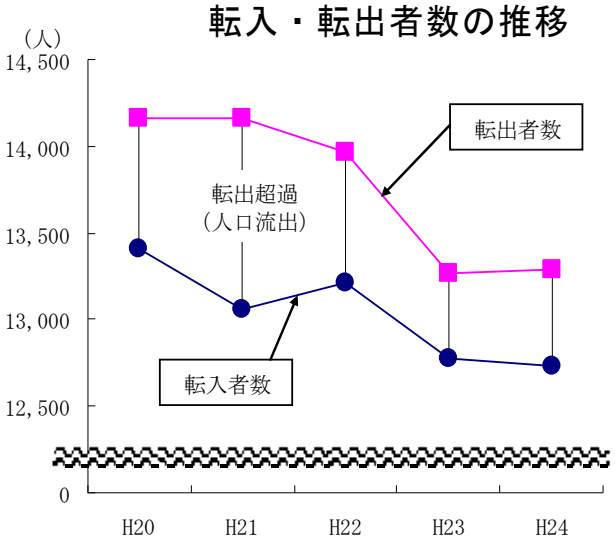


図７　福岡都市圏（地域別）転入超過数の推移

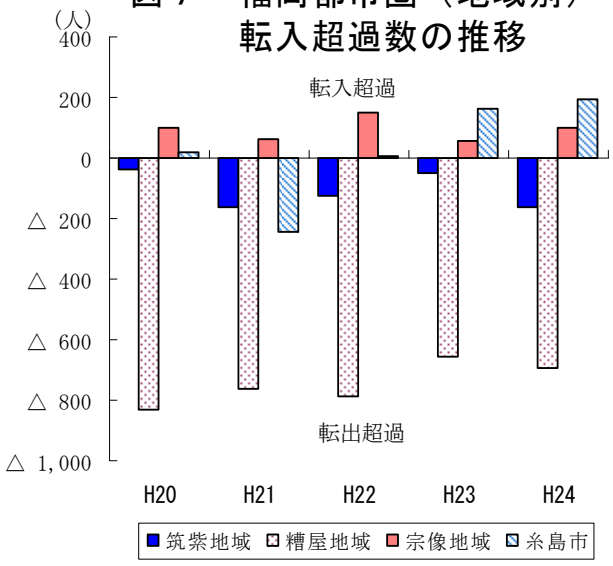


表10　福岡都市圏との人口移動状況

地　域	平成22年			平成23年			平成24年					
	転入	転出	転入超過（△は転出超過）	転入	転出	転入超過（△は転出超過）	転入	増加率	転出	増加率	転入超過（△は転出超過）
	人	人	人	人	人	人	人	%	人	%	人
計	13 211	13 967	△ 756	12 770	13 261	△ 491	12 734	△ 0.3	13 293	0.2	△ 559
筑紫地域	5 996	6 122	△ 126	5 779	5 831	△ 52	5 826	0.8	5 986	2.7	△ 160
糟屋地域	4 250	5 035	△ 785	4 099	4 757	△ 658	4 028	△ 1.7	4 720	△ 0.8	△ 692
宗像地域	1 282	1 135	147	1 283	1 224	59	1 267	△ 1.2	1 170	△ 4.4	97
糸 島 市	1 683	1 675	8	1 609	1 449	160	1 613	0.2	1 417	△ 2.2	196

注）筑紫地域…筑紫野市，春日市，大野城市，太宰府市，那珂川町　　糟屋地域…古賀市，宇美町，篠栗町，志免町，須恵町，新宮町，久山町，粕屋町
宗像地域…宗像市，福津市

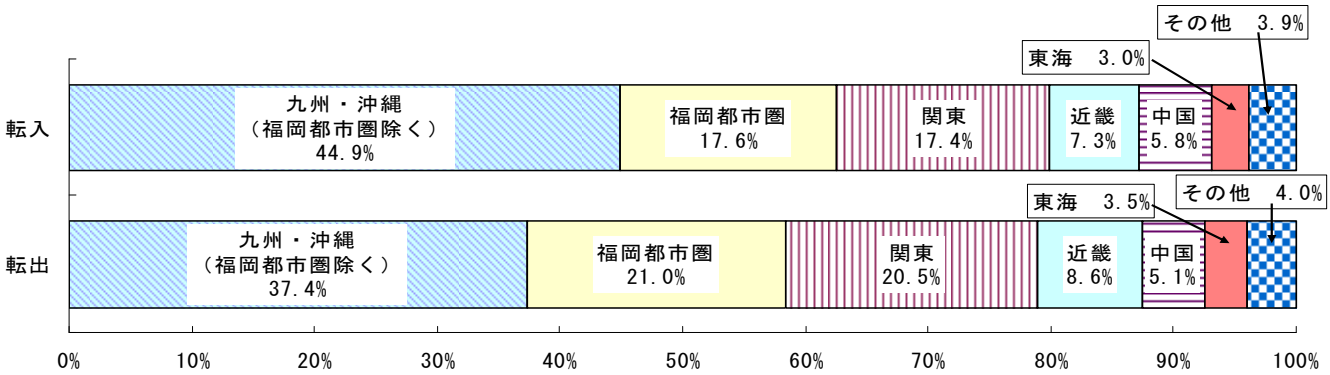
り，8,247人の転入超過となりました。次いで関東地方との人口移動が多く，転入者が12,584人（同△9.8%）で転出者が12,979人（同4.0%）となり，395人の転出超過となりました。以下，近畿地方が転入者5,276人，転出者5,406人で130人の転出超過，中国地方が転入者4,202人，転出者3,206人で996人の転入超過と続いています。

平成23年は転入超過となっていた関東地方，北陸甲信越地方，近畿地方は，転出超過に転じました。

また，転入者数・転出者数ともに，九州・沖縄地方との移動が約６割，関東地方との移動が約２割を占めています。

平成24年の福岡市の人口移動の特徴としては，九州・沖縄地方からは流入し，福岡都市圏と関東地方へ流出しているということが言えます。

図８　転入・転出者数の地域別構成比



注）国外，住所不明を除く

表11　地方別転入・転出者数

地方	平成22年 転入	平成22年 転出	平成22年 転入超過（△は転出超過）	平成23年 転入	平成23年 転出	平成23年 転入超過（△は転出超過）	平成24年 転入	平成24年 転入 増加率	平成24年 転出	平成24年 転出 増加率	平成24年 転入超過（△は転出超過）
	人	人	人	人	人	人	人	%	人	%	人
総数	**70 727**	**65 528**	**5 199**	**74 252**	**63 513**	**10 739**	**73 677**	**△ 0.8**	**64 789**	**2.0**	**8 888**
北海道	546	454	92	483	478	5	505	4.6	476	△ 0.4	29
東北	565	503	62	837	422	415	713	△ 14.8	629	49.1	84
関東	10 653	13 070	△ 2 417	13 957	12 485	1 472	12 584	△ 9.8	12 979	4.0	△ 395
北陸甲信越	551	557	△ 6	552	523	29	560	1.4	567	8.4	△ 7
東海	2 130	2 172	△ 42	2 023	2 138	△ 115	2 179	7.7	2 203	3.0	△ 24
近畿	5 079	5 347	△ 268	5 314	5 299	15	5 276	△ 0.7	5 406	2.0	△ 130
中国	3 895	3 264	631	4 194	3 273	921	4 202	0.2	3 206	△ 2.0	996
四国	963	810	153	1 000	790	210	1 048	4.8	847	7.2	201
九州・沖縄	45 145	38 077	7 068	44 684	36 731	7 953	45 152	1.0	36 905	0.5	8 247
国外	1 200	1 274	△ 74	1 206	1 374	△ 168	1 457	20.8	1 567	14.0	△ 110
住所不明	－	－	－	2	－	2	1	△ 50.0	4	皆増	△ 3

注1）東北地方…青森県，岩手県，宮城県，秋田県，山形県，福島県　関東地方…茨城県，栃木県，群馬県，埼玉県，千葉県，東京都，神奈川県　北陸甲信越地方…新潟県，富山県，石川県，福井県，山梨県，長野県　東海地方…岐阜県，静岡県，愛知県，三重県　近畿地方…滋賀県，京都府，大阪府，兵庫県，奈良県，和歌山県　中国地方…鳥取県，島根県，岡山県，広島県，山口県　四国地方…徳島県，香川県，愛媛県，高知県　九州・沖縄地方…福岡県，佐賀県，長崎県，熊本県，大分県，宮崎県，鹿児島県，沖縄県

注2）都道府県別の転入・転出者数，福岡都市圏の市町村別転入・転出者数は97,98ページに掲載